

目 次

文化経済学会<日本>2012年度熊本大会

<<凡例>>

各発表の討論者については、討論者氏名末尾の上付き数字と発表タイトル末尾の上付き数字を参照してください。

表示例)

①-A 映像産業と文化発信 ●座長：阪本 崇 ●討論者：太下 義之 ^①	
タイトル	発表者
「アキハバラを、編む」 ～秋葉原における新しい文化発信コミュニティの可能性～ ^①	梅本 克

分科会 ①

①-A 映像産業と文化発信 ●座長：阪本 崇 ●討論者：太下 義之^①／杉浦 幹男^②

タイトル	発表者	頁
「アキハバラを、編む」 ～秋葉原における新しい文化発信コミュニティの可能性～ ^①	梅本 克	10
映画祭のマネジメント ^②	矢澤 利弘	12
イギリスの映画政策 —創造産業政策とナショナル・シネマ促進策は矛盾するのか？ ^①	河島 伸子	14

①-B 伝統文化と無形文化遺産政策

●座長：後藤 和子 ●討論者：藤原 恵洋^①／高島 知佐子^②／関 鎮京^③

タイトル	発表者	頁
和菓子の需要機会からみる都市文化の多様性について ～九州の和菓子の伝統と歴史から～ ^①	森崎 美穂子	18
伝統芸能における市民参加型舞台芸術の実演と評価に関する研究 —南区人形浄瑠璃「艶競里恋唄」を事例として— ^②	北岡 慶子	20
無形文化遺産の保護と活用に関する一考察 ^③	角 美弥子	22

①-C 文化の計量分析

●座長：勝浦 正樹 ●討論者：清水 裕之¹／八木 匡²

タイトル	発表者	頁
学生の実演芸術鑑賞の現状と20年間の変化 ¹	有馬 昌宏	26
貴重品概念の検討 ²	作間 逸雄	28

①-D クリエイティブ集積とネットワーク

●座長：佐々木 雅幸 ●討論者：本田 洋一¹／友岡 邦之²／中川 幾郎³

タイトル	発表者	頁
リノベーションを通して創出されたクリエイティブクラスターの評価と課題 ～福岡の3つの事例を対象に～ ¹	馬 麗娜	32
学生演劇祭による美濃加茂市の芸術文化振興 ²	大前 研二	34
まちかど博物館ネットワーク化の意義と展望 —三重県まちかど博物館を事例として— ³	富本 真理子	36
過疎地における創造的人材集積の成功要因分析試論 ²	野田 邦弘	38

分科会 ②

②-A まちづくりと文化経済 ●座長：小野田 泰明 ●討論者：古賀 弥生¹／川井田 祥子²

タイトル	発表者	頁
わが国の学校教育における芸術体験事業としてのオーケストラプログラムの 今日的課題の考察 ¹	砂田 和道	42
第三の場所としての図書館の可能性についての一考察 ²	岩井 千華	44
千年都市菊池における市民主体のまちづくり中間支援「菊池養生詩塾」の 創出と活動展開 ¹	佐藤 忠文	46
まちづくろい契機としての文脈・矜持・紐帯の再生がもたらす補完性と創発性の検討 ～熊本県菊池市における菊池文化資源総合調査を通して～ ²	藤原 恵洋	48

②-B 文化イノベーションと大学の役割

●座長：清水 裕之 ●討論者：野田 邦弘¹／佐々木 雅幸²

タイトル	発表者	頁
発達・創造のイノベーションの空間としての地域 —創造的人材・市民・支援機関のネットワークの視点から— ¹	本田 洋一	52
市民と大学の連携による日田ラボの創出を通じたまちづくり中間支援活動の 評価と課題 ¹	高倉 貴子／ 藤原 恵洋	54

福井・加賀連携観光フィールド大学の実践 —加賀市丸ごとキャンパス構想— ²	山崎 茂雄	55
創造都市金沢における美術工芸大学の役割と使命 ²	前田 厚子	56

②-C 非日常空間とアートプロジェクト

●座長：中谷 武雄 ●討論者：勝浦 正樹¹／有馬 昌宏²

タイトル	発表者	頁
フランス・ロリアンにおけるヴァカンスの日常性 ¹	田中 尚人	60
地域型アートプロジェクトにおける若者の学びの場としての可能性 ¹	藤原 旅人	62
旧産炭地における炭鉱を文化資源としたアートプロジェクト 石炭・石炭灰顔料 COAL PAINT を用いたアートプロジェクト実践による旧産炭 地住民の矜持再生 ²	國盛 麻衣佳	64
芸術創造と公共政策の共創を誘発するアートプロジェクト —仕組み・方法・課題— ²	谷口 文保	66

②-D コンテンツ・クリエイティブ産業の分析

●座長：八木 匡 ●討論者：後藤 和子¹／河島 伸子²

タイトル	発表者	頁
日本におけるコンテンツ産業政策の現状と課題 —アニメ産業の人材育成の取り組みを事例として— ¹	稲熊 太郎	70
台湾における文化創意産業と文化創意園區の形成過程と実態に関する研究 —「華山文化創意園區」を事例として ¹	廖 偉汝	72
コンテンツ・ツーリズムから見る文化と心理のあり方 ²	牧 和生	74
沖縄県における文化の産業化の取り組み ～コンテンツファンドによる資金的支援と組織化、その課題～ ²	杉浦 幹男	76